

米国生まれの日本育ち 生産・物流シミュレータ
FACTOR/AIM ユーザ企業紹介

石川島播磨重工業株式会社 様



イメージを形にするシミュレータで 実現できた顧客とのコラボレーション

ジェットエンジンや宇宙開発、プラント建設などといったさまざまな事業領域で日本を代表するエンジニアリング企業、石川島播磨重工業（以下IHI）。その運搬・物流システム事業部では、以前から生産・物流ラインのシミュレーションを行っていたが、最近になって新たにFACTOR/AIMを導入した。ライン構築の専門家である彼らはなぜ、FACTOR/AIMを選んだのだろうか。



運搬・物流システム事業部
グリーン物流プロジェクト部
本多 史明氏

スピード時代に求められるのは ビジュアルを手軽に動かせるシミュレータ。

IHIでは、以前からライン稼働のシミュレーションを行ってきたが、1年前からFACTOR/AIMを採用。すでに数件のプロジェクトでFACTOR/AIMによるシミュレーションが行われている。

「これまでは、言語系のシミュレータを使っていましたが、時間的にも労力的にも、負担が大きくなってきました。そこで他のシミュレータを考えていたところ、FACTOR/AIMなら、あらかじめ用意されたパーツを組み合わせて製品の流れを指定し、シミュレーションできるということで、まず試用させてもらいました」

そう語るのは運搬・物流システム事業部の本多史明氏。実は、本多氏はFACTOR/AIMを実際に使用してみて、わずか1週間ほどで使えるようになってしまった。その秘密は何にあるのだろうか。

「もともと私は制御系・情報系が専門だったので、取り組みやすかったのもありますが、

すでに、こう使いたいというイメージがあったことが大きいと思います。最初の1週間、できないかと思っていたことをいろいろと試行錯誤して、必要な機能を探りました」

シミュレーションには、まず何をどうやって構築するかというイメージが大切。それを簡単に具現化できるシミュレータ、それがFACTOR/AIMなのだ。基本的にシミュレータ上のパーツに属性を与えていき、製品の流れの定義、品番、生産指示（オーダ）の指定で全体の動きを表現できるから、すでに頭の中に活用イメージを持っている場合には、FACTOR/AIMが非常に有効だと言える。

視覚的なシミュレーションで、顧客との 密接なコラボレーションがはじまる。

では、IHIでのシミュレータ導入効果はいかなるものだったのだろうか。

「スピーディかつ簡単にラインの検証ができることはもちろんですが、アニメーションでお見せすることによってお客様とイメージが共有できることが大きなポイントです」と本多氏は語る。

ラインのシミュレーションには現状の数値を入力することが不可欠だが、お客様にとってそれらの数値は事業の核心そのもの。簡単に出せるものではないが、アニメーションを見せると「ならばこういった数字ではどうか」と、お客様側からより具体的な条件を提示してもらいやすいのだという。

これによって「お客様からのフィードバックとシミュレーションを繰り返し、より精度を高めることができます」というIHIでのFACTOR/AIMシミュレーションは、まだはじまったばかり。これから大きく発展する可能性を秘めている。



FACTOR/AIMのシミュレーションモデル図

石川島播磨重工業株式会社

創業	1853年(嘉永6年)
従業員数	11,842名
連結売上高	1兆1,148億円(平成13年3月期)
事業内容	宇宙開発、ジェットエンジン、エネルギー、プラント、環境(水処理等)、運搬機械、物流システム、産業機械、橋梁・鉄構、土木建設機械、建築、パーキング、民生関連、IT事業、レジャー・文化関連、船舶・海洋

「生産・物流シミュレータ:FACTOR/AIM」新バージョン、ユーザ事例紹介

日時: 2003年2月21日(金)13:00~17:00
場所: 東京 当社本所新館B1レクチャーラーム
お問い合わせ先: 03-5342-1124

詳しくはこちらまで▶

www.kke.co.jp/csrp/



数理技術部 シミュレーション技術室

〒164-0011 東京都中野区中央4-5-3 TEL. 03-5342-1124 FAX. 03-5342-1224

※CSRPIは構造計画研究所の登録商標です。※記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。